



Administrator Guide

Foxit Admin Console

Microsoft® Partner
Gold Independent Software Vendor (ISV)

©Foxit Software Incorporated. All Rights Reserved.

© Foxit Software Incorporated. All Rights Reserved.

No part of this document can be reproduced, transferred, distributed or stored in any format without the prior written permission of Foxit.

Anti-Grain Geometry - Version 2.4

© Maxim Shemanarev (<http://www.antigrain.com>)

Portions of this product Copyright [2001-2020] Solid Documents

Permission to copy, use, modify, sell and distribute this software is granted provided this copyright notice appears in all copies. This software is provided "as is" without express or implied warranty, and with no claim as to its suitability for any purpose.

目次

目次.....	3
Foxit Admin Console 概要.....	4
設定とアクティベーション	4
ホーム	6
ユーザーID の管理	6
ディレクトリの設定	6
ユーザー	11
グループ	15
組織のカスタマイズ	16
管理者ロールの管理	17
ライセンスの管理	21
ライセンスを管理する	22
内部更新の環境設定 (オンプレミス環境のみ)	24
環境設定	24
バージョンの管理	25
製品	26
レポート	27
設定	28
認証の設定	28
メールサーバー (オンプレミス環境のみ)	28
エンタープライズブランドのカスタマイズ	29
Windows 認証 (オンプレミス環境のみ)	29
製品の設定	30
ログのクリーンアップ設定	32
サポート (オンクラウド環境のみ)	32
コンテンツログ	32
お問い合わせ	33

Foxit® Admin Console™ Administrator Guide

このガイドでは、管理者のみが利用可能な機能および特長について説明します。

Foxit Admin Console 概要

Foxit Admin Console は管理者が組織全体の Foxit 製品/ サービスおよびユーザーの役割を一元的に集中管理するための、クラウドベースのポータルサイトとして提供されています。管理者は組織の環境に合わせて Admin Console を設定し、アクティベーションを完了後、Foxit Admin Console の URL を開いて利用を開始できます。Admin Console を使用して下記を行なうことができます:

- ライセンスと製品概要を確認する
- ライセンスキーの設定
- ユーザーへのライセンスキーの割り当て
- Foxit 製品の管理
- パッケージの内部での更新の設定 (オンプレミス環境のみ)
- メールサーバーの設定 (オンプレミス環境のみ)
- Foxit 製品の使用と統計に関する詳細レポートの確認
- 企業ブランド情報のカスタマイズ
- 管理者の操作ログの確認

設定とアクティベーション

Foxit Admin Console の利用には、AWS 上に導入して Foxit がホスティングする場合 (オンクラウド環境) と、企業/ 組織内のサーバーに配置して内部ネットワーク経由で利用し、保守をすべて組織内のスタッフの手で行なう場合 (オンプレミス環境) があります。オンクラウド (Foxit ホスティング) の Admin Console では、Admin Console の URL と他の設定情報を含む電子メールを受信後、すぐに利用できるようになります。オンプレミスの Admin Console の場合、企業/ 組織はオンプレミス環境への導入とクライアントの設定作業が必要です。導入に関するドキュメントやクライアントの設定手順は、購入後に Foxit から発送されるメールに掲載されています。

すべての準備を完了後、管理担当者 ([super admin](#)) は Admin Console のアクティベーションを実行する必要があります。アクティベーションには下記の操作を行ないます:

1. Web ブラウザーを開き Admin Console の URL にアクセスします (オンクラウドの Admin Console では、購入後に Foxit から発送される電子メールに URL が記載されています。オンプレミスの場合、URL は Foxit Admin Console の導入時に組織で作成します)。

2. オンクラウド環境では、アクティベーションにインターネット接続が必要です。実行するため、購入手続きをしたアカウントを使用して Foxit Admin Console にログインします。その後、手順 4 に進んでください。
オンプレミス環境の場合は、アカウントのサインアップを行ってからログインします。 **ノート:** サインアップしたアカウントのメールアドレスまたはユーザー名が SSO アカウント (LDAP または SAML アカウント) に使用しているものと同じであれば、Foxit Admin Console で LDAP または SAML を設定した後に、ログインページで **SSO Login** をクリックし、SSO 資格情報を使用してログインする必要があります。
3. アクティベーションには 2 つの方法があります: **オンラインアクティベーション**と**オフラインアクティベーション**です。
 - **オンラインアクティベーション**にはインターネット接続が必要です。Foxit Admin Console の購入手続きをしたアカウントを使用し、**接続**をクリックしてログインします。
 - コンピューターがオフラインの場合は、**参照**をクリックして購入したキーファイルを使用し、オフラインアクティベーションを完了する必要があります。(もしキーファイルをまだ入手していない場合は **Get One (入手)** をクリックし、表示されるダイアログで Admin Console のサーバーID を取得します。このサーバーID を Foxit に送信しキーファイルの発行を依頼してください。後日、Foxit からキーファイルを発行されます。)
4. アクティベーションに成功後、**Get Started (利用開始)** をクリックしてください。Admin Console のいくつかの項目について、ウィザード (画面の説明を表示する小さな緑色のメッセージボックス) が表示され、利用開始の操作を支援します。Admin Console ウィンドウの左側には、**ホーム**、**ユーザーID の管理**、**ライセンスの管理**、**製品**などの一連の項目があります。項目およびサブ項目を選択すると右側に関連するページを開き、必要に応じて設定を行うことができます。
5. (オプション) Admin Console ウィンドウの右上隅にある管理者アバターにカーソルを合わせると、アカウント情報 (メールアドレスまたはユーザー名、管理者の役割) とドロップダウンメニューが表示されます。メニューの「ログアウト」をクリックすると、Foxit Admin Console からログアウトします。「プロフィール」をクリックするとプロフィールページを開き、アカウントの詳細情報の表示やパスワードの変更、そして下記の作業を行うことができます。
 - **管理者権限の移譲** - スーパー管理者として、自分の管理者権限を他のユーザーに移譲することができます。「**管理者権限の移譲**」のセクションで、新しいスーパー管理者のメールアドレスまたはユーザー名を入力して「**移譲**」をクリックします。(ノート: スーパー管理者だけでなく Admin Console のユーザーでもある場合、この操作では、Admin Console のユーザーアカウントを削除せず、すべての管理者のコントロールとアクセス許可だけを取り消します。)
 - **法人利用の終了** - Foxit 製品を使用する必要がなくなった場合、または Foxit Admin Console の有効期間が終了した場合、スーパー管理者は Foxit Admin Console で法人利用の終了の操作を実行して法人のアカウントを閉じ、Foxit からすべての関連データを削除することができます。操作の前に、法人利用を終了することによる影響やリスクについて、ページでご確認ください。法人利用を終了する準備ができましたら「**利用終了のリスクについて確認済み**」のボックスにチェックして、「**利用終了**」ボタンをクリックします。その後メールアドレスと送られてきた認証コードを入力し、利用終了の操作を完

了させる必要があります。なお、この操作は取り消すことができませんのでご注意ください。(オンクラウド環境のみ)

ノート: Admin Console にログインする際に、複数の組織で管理者として同じアカウントを使用していると、組織を選択するためのダイアログがポップアップ表示されます。別のアカウントでログインする場合は、ダイアログボックスの「再ログイン」ボタンをクリックしてログインページに戻り、アカウントを入力してログインしてください。

ホーム

ホームの画面では、製品のライセンスやユーザーのデータなどの概要が表示され、組織内の Foxit 製品の利用プランの使用状況を一目で確認することができます。ライセンスの割り当て、およびアクティベーションされたライセンス数の統計を確認する場合、「過去 7 日間」または「過去 30 日間」を選択して、直近の週/月のデータを表示することができます。また、ホーム画面では、組織データ (従業員数、グループ数、ログインユーザー数など) や、企業名、ロゴなどの組織情報も表示できます。

ノート: ホーム画面では、製品管理者はスーパー/システム管理者が割り当てた製品のデータのみ閲覧することができます。

ユーザーID の管理

組織内の要件や状況に応じて、Admin Console に CSV ファイルをアップロードし、ユーザー (およびグループ) を個別または一括で管理したり、Admin Console と法人のアカウントシステム (user directory system) に接続してシングルサインオン (SSO) の設定を行ったりすることができます。

ディレクトリの設定

シングルサインオン (SSO) は、ユーザーが 1 セットのログイン認証情報 (例えば、企業で認証のために提供されるユーザーID とパスワードなど) で複数のアプリケーションにアクセスできるようにする、セッションおよびユーザー認証サービスです。現在、Foxit Admin Console は LDAP、および SAML という 2 つの一般的な SSO メソッドをサポートしています。Foxit Admin Console で LDAP/SAML の設定を行なうことで、シングルサインオンを使用して組織内のすべてのユーザーが認証されたアカウントで直接サインインし、Foxit のアプリケーションにアクセスできるようになります。

Admin Console を LDAP または SAML ディレクトリに接続するには、スーパー管理者またはシステム管理者が、**ユーザーID の管理**の配下にある**ディレクトリの設定**ページで、ユーザーディレクトリを最初に設定する必要があります。(ヒント: 管理者の権限は、管理者のロールの種類によって異なるため、一部の項目や機能は利用できないか、または表示されない場合があります。管理者のロールの詳細については、[管理者のロールの管理](#) もご参照ください。)

LDAP を使用したユーザー管理 (オンプレミス環境のみ)

LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) は、電子メールやその他のプログラムがユーザーなどの情報を LDAP サーバーから検索するために使用するインターネットプロトコルです。LDAP ディレクトリには、ユーザーとグループに関するデータコレクションが格納されます。

LDAP を使用して従業員情報を保存している企業の場合、以下の手順に従って Foxit Admin Console を LDAP ディレクトリに接続して認証、ユーザーおよびグループ管理を行ないます。

1. ディレクトリの設定ページで「ディレクトリを追加」をクリックします。
2. LDAP ユーザーディレクトリの設定値を入力します。

サーバー設定:

設定	説明
Name	Enter a name to help you identify the LDAP directory server, such as "Company Staff Directory" or "Company Corporate LDAP".
Directory Type	Select the type of LDAP directory that you will connect to.
Hostname	Enter the host name of the server running LDAP, such as "ldap.example.com".
Port	The port your LDAP directory server is listening on, such as "389".
Use SSL	If the connection to the directory server is an SSL (Secure Sockets Layer) connection, select this option. And you will need to configure an SSL certificate to use this setting.
Username	Enter the name of the user that will log in to LDAP. Here are some examples: <ul style="list-style-type: none"> • cn=user, dc=domain, dc=name • user@domain name
Password	Enter the password of the user.

LDAP スキーマ:

設定	説明
Base DN	The Root node in an LDAP directory server when searching for users and groups from the server, such as "cn=users, dc=example, dc=com".

ユーザスキーマ設定:

設定	説明
User Object Filter	The filter to use when searching user objects. Examples: <ul style="list-style-type: none"> (objectclass=inetorgperson)
User Name Attribute Field	The attribute field to use when loading the username. Examples: <ul style="list-style-type: none"> cn sAMAccountName
User DN Attribute Field	The attribute field to use when loading the user's distinguished name. Examples: <ul style="list-style-type: none"> entryDN distinguishedName
User First Name Attribute Field	The attribute field to use when loading the user's first name, such as "givenName".
User Last Name Attribute Field	The attribute field to use when loading the user's last name, such as "sn".
User Display Name Attribute Field	The attribute field to use when loading the user's full name, such as "displayName".
User Email Attribute Field	The attribute field to use when loading the user's email address, such as "mail".

グループスキーマ設定:

設定	説明
Group Object Filter	The filter to use when searching for group objects, such as "(&(objectClass=group)(cn=*))".
Group DN Attribute Field	The attribute field to use when loading the group's distinguished name. Examples: <ul style="list-style-type: none"> entryDN distinguishedName
Group Name Attributes	The attribute field to use when loading the group's name, such as "cn".
Group Description Attribute Field	The attribute field to use when loading the group's description, such as "description".

メンバーシップスキーマ設定:

設定	説明
Group Members Attribute	The attribute field to use when loading the group's members, such as "member".
User Membership Attribute	The attribute field to use when loading the user's groups, such as "memberOf".

Group Membership Attribute	The attribute field to use when loading the group's parent groups, such as "o".
----------------------------	---

3. 設定後に「保存」をクリックして LDAP ディレクトリの設定を適用します。(または「リセット」をクリックして上記の設定で入力したすべてのデータを消去します。)
4. 設定した LDAP ディレクトリが、ディレクトリのリストに正常に追加されていることを確認できます。またディレクトリのリストの上にある「ディレクトリの追加」ボタンをクリックして、必要に応じてさらにディレクトリを追加することが可能です。
5. (オプション) アクションの列では下記の操作を実行できます:
 - 「無効」または「有効」をクリックして、LDAP ディレクトリを無効または有効にします。LDAP ディレクトリを無効にすると、ディレクトリ名の末尾に「(非アクティブ)」と追加され、必要に応じて「削除」をクリックしてディレクトリを削除できます。ヒント: 一つ、または複数の LDAP ディレクトリを一括して無効または有効にするには、それらを選択して、ディレクトリのリストの上にある「無効」または「有効」ボタンをクリックします。
 - 「編集」をクリックしてから LDAP ディレクトリの情報を変更します。
 - 「テスト」をクリックすると、選択した LDAP ディレクトリにログインして接続をテストすることができます。ポップアップダイアログボックスで、LDAP ディレクトリのユーザーの電子メールアドレス (またはユーザー名) とパスワードを入力し、「設定のテスト」をクリックします。LDAP 接続が成功すると、ログインが成功したことを示すプロンプトが表示されます。
 - 「今すぐ同期」をクリックして、LDAP ディレクトリをすぐに同期します。ステータスの列には、ディレクトリの最後に行なった同期が表示されます。ヒント: LDAP ディレクトリを同期する頻度を指定することもできます。実行するには、1 つまたは複数のディレクトリを選択し、ディレクトリのリストの上にある「同期」ボタンをクリックすると、ボタンの横にリストボックスが表示されます。リストから「今すぐ」を選択するか、時刻/日/週/月/年ごとに特定の時刻を設定して「OK」をクリックします。必要に応じて「自動同期のキャンセル」をクリックし、同期の設定を削除できます。
6. (オプション) 複数のディレクトリを追加した場合は、各ディレクトリの横にある黄色の上下の矢印をクリックして、ディレクトリの順序を定義する必要があります。同じユーザーが複数のディレクトリに存在する場合、そのユーザーはログイン時にディレクトリ内で最初に一致した資格情報 (パスワード) のみを使用できます。

SAML を使用したユーザー管理

SAML (Security Assertion Markup Language) は、関係者 (特に ID プロバイダーとサービス プロバイダー) の間で認証および承認データを交換するためのオープン標準の規格です。SAML シングルサインオンにより、ユーザーは組織の ID プロバイダーを使用してログインし、すべての Foxit アプリケーションにアクセスできます。

このセクションでは、Foxit Admin Console で SAML シングルサインオンを設定する方法について説明します。(オンクラウド環境では、管理アカウントに SAML シングルサインオンを適用する前に、まずドメインを確認する必要があります。[ドメインの確認](#) もご参照ください)

1. SAML の設定では、ユーザーのユーザー名と電子メールの属性が ID プロバイダーに設定されていることが必要です。画面の指示に従って、ID プロバイダーにユーザーの属性を追加します。
2. 「**SAML 設定の追加**」をクリックします。
3. ページに表示された値 (サービスプロバイダーの Entity ID と Assertion Consumer Service URL) をコピーし、ID プロバイダーに貼り付けます。
4. ID プロバイダーの詳細を以下のフィールドにコピーし、「**設定の保存**」をクリックします。

フィールド	説明
Identity provider Entity ID	The URL for your identity provider where Foxit applications will accept authentication requests.
Identity provider SSO URL	The URL your users will be redirected to when logging in.
Public x509 certificate	The value for this field begins with '-----BEGIN CERTIFICATE-----'. The certificate contains the public key Foxit applications use to verify that your identity provider has issued all received SAML authentication requests.

5. SAML の設定を編集する必要がある場合は、「**設定の編集**」をクリックして設定を編集します。シングルサインオン用に SAML を設定しない場合は、「**設定の削除**」をクリックして SAML の設定を削除します。
6. SAML ユーザーの同期の設定のため下記の手順を実行します。
 - 1) コネクターを選択し、画面の指示に従ってコネクター設定の詳細を入力します。
 - 2) 設定を完了したら「**承認**」をクリックします。
 - 3) コネクターの横の「**ユーザーの同期**」をクリックしてユーザーデータを同期します。

ドメインの確認 (オンクラウド環境のみ)

1. **ユーザーID の管理** の配下の **ディレクトリ** の設定 ページに移動します。
2. 「**ドメインの確認**」をクリックします。
3. 下記の 2 つの方法でドメインを確認できます。いずれかを選択して画面の指示に従ってください。
 - DNS – TXT レコードをドメインネームシステム (DNS) にコピーします。
 - HTTPS – ドメインの Web サイトのルートフォルダに HTML ファイルをアップロードします。
4. HTML ファイルをアップロード、または TXT レコードを追加後、「**ドメインの確認**」をクリックします。
5. ポップアップダイアログボックスで TXT レコードまたは HTTPS を選択して、ドメ

インフィールドに確認するドメインを入力し「**ドメインの確認**」をクリックします。

- 操作後、**確認済みドメインリスト**にドメインが追加され、検証したステータスを確認できますが、このときドメインのステータスが未確認と表示されることがあります。例えば、DNS を使用してドメインを確認すると、ドメインを確認して DNS の変更が有効になるまでに最大 72 時間かかる場合があります。反映後、**アクション**の列の「**確認**」をクリックして再確認できます。
- (オプション) リストからドメインを削除する場合は**アクション**の列の「**削除**」をクリックします。確認済みドメインを削除した場合、そのドメインを使用するユーザーは管理の対象外となり、管理アカウントページにも表示されなくなります。

ユーザー

SSO を設定して Foxit Admin Console をアカウントシステムに正常に接続すると、**ユーザーページ**でユーザーアカウントの追加や検索、管理できます。これらのユーザーアカウントは、組織内のエンドユーザーに Foxit アプリケーションの使用資格を与えます。

どちらの環境でも、**ユーザーページ**には 2 つのタブがあります：

- ディレクトリユーザーおよび追加ユーザー (オンプレミス環境の場合)
- ディレクトリユーザーおよび招待ユーザー (オンクラウド環境の場合)

LDAP を使用したユーザー管理 (オンプレミス環境のみ)

ディレクトリユーザータブ

このタブに表示されるすべてのユーザーは、設定した LDAP ディレクトリからのものです。左側には企業内の LDAP ディレクトリの階層構造がツリー表示されます。LDAP ディレクトリでグループを選択すると、そのグループのすべてのユーザーが右側に一覧表示されます。

LDAP ユーザーディレクトリは定期的に同期され、Admin Console のユーザーデータを最新の状態に保ちます。同期した後、組織を離れた可能性のある同期されていないユーザーは、**同期されていないユーザー**のページに一覧表示されます。このページを表示するには、ディレクトリツリーの下にある「**同期されていないユーザー**」をクリックします。ユーザーを削除するには、リスト内のユーザーに移動し、**アクション**の列の**削除**アイコン  をクリックします。

検索ボックスにユーザーの名前または電子メール アドレスを入力して **Enter** キーを押すと、ディレクトリユーザー (同期されていないユーザーを除く) を検索できます。

各ユーザーの詳細を表示および編集できます。**アクション**の列で**詳細を表示**アイコン  をクリックするか、またはユーザーリストでユーザーの電子メールアドレスをクリックすると、右側にユーザー情報ダイアログボックスが表示され、下記の操作を実行できます：

- 「**編集**」をクリックして、ライセンスの割り当て、またはユーザーの既存のライ

センス情報を変更/ 削除します。ユーザーがグループに属している場合、グループ名をクリックするとグループページに切り替わり、そこでユーザーをグループから削除したり、ユーザーを別のグループに移動したりできます。

- 「無効」:ユーザーアカウントを無効にして、ユーザーがログインして Foxit アプリケーションにアクセスできないようにします。
- 「有効」:ユーザーアカウントを有効にして、ユーザーがログインして Foxit アプリケーションにアクセスできるようにします。有効にすることで、必要に応じてユーザーにライセンスを割り当てることができます。

追加ユーザータブ

アカウントシステムに存在せず、Foxit アプリケーションにアクセスを要求する一部のユーザーについては、**追加ユーザータブ**から手動で追加できます。追加したユーザーの総数は、ユーザーリストの上に表示されます。

- ユーザーを追加するには、ユーザーリストの上にある「**ユーザーを追加**」ボタンをクリックしてドロップダウンリストを開きます。そして下記のいずれかを実行します:
 - 1 人のユーザーを追加し、必要に応じてライセンスを割り当てる場合は「**ユーザーを追加**」を選択します。
 - ユーザーアカウントを含む CSV ファイルをアップロードして複数のユーザーを追加する場合は「**CSV でユーザーを追加**」を選択します。
 - CSV でユーザーを追加した後、結果を表示するには「**一括操作結果**」を選択します。正常に追加されなかったユーザーがいる場合、そのユーザーが結果に表示されます。
- ユーザーを CSV ファイルに書き出すには、ユーザーの横のボックスにチェックして必要なユーザーを選択し、ユーザーリストの上の「**ユーザーの書き出し**」ボタンをクリックします。ユーザーを選択せずに「**ユーザーの書き出し**」をクリックすると、リスト内のすべてのユーザーを書き出します。
- Admin Console からユーザーを削除してライセンスを取り消すには、ユーザーを選択してユーザーリストの上の「**削除**」ボタンをクリックします。
- ユーザーをすばやく検索するには、検索ボックスにユーザー名または電子メールアドレスを入力して **Enter** キーを押します。または検索ボックスの下矢印をクリックして詳細検索ボックスをドロップダウンし、最終ログイン時刻が特定の期間内のユーザーを絞り込んでから「**検索**」をクリックします（「**クリア**」をクリックすると検索ボックスと詳細検索ボックスで指定した条件が削除されます）。必要に応じて、アカウントステータスの種類（ライセンスが利用可能か取り消されているか）を選択してユーザーを絞り込むことができます。
- アクション列の**取り消しアイコン**  をクリックしてユーザーからライセンスを削除します。ライセンスを取り消されると、ユーザーはライセンスを再び割り当てられるまで自分のアカウントにログインして製品をアクティベーションできなくなり、アクション列の**取り消しアイコン**  が**アクセスアイコン**  に変化します。**アクセスアイコン**  をクリックすると、そのユーザーはログインして Foxit アプリケーションにアクセスできるようになります。[ユーザーの無効/ 有効](#)もご参照ください。
- アクション列の**詳細アイコン**  をクリックするとユーザーの詳細を表示して下記のいずれかを実行できます:
 - 「**編集**」をクリックして、ライセンスを割り当てるか、またはユーザー

の既存のライセンス情報を変更/ 削除します。ユーザーがグループに属している場合、グループ名をクリックするとグループのページに切り替わり、そこでユーザーをグループから削除したり、別のグループに移動したりできます。

- 「パスワードの設定」をクリックして、ユーザーアカウントのパスワードを変更します。
- 「取り消し」/「アクセス」をクリックして、ユーザーがログインして Foxit アプリケーションにアクセスすることを無効/ 有効にします。[ユーザーの無効/ 有効](#) も参照してください。

SAML を使用したユーザー管理

ディレクトリユーザータブ

ディレクトリユーザータブには組織の SAML ディレクトリ内のすべてのユーザーが一覧表示され、ユーザーの電子メールやアクティベーションステータスなどの詳細が表示されます。下記のタスクを実行できます：

- ユーザーリストでユーザーの電子メールアドレスをクリックすると、右側にユーザー情報ダイアログボックスが表示され、以下の操作を実行できます：
 - 「編集」をクリックして、ユーザー名の編集やライセンスの割り当て、ユーザーの既存のライセンス情報の変更/ 削除を行いません。ユーザーがグループに属している場合、グループ名をクリックするとグループのページに切り替わり、そこでユーザーをグループから削除したり、別のグループに移動したりできます。
 - 「取り消し」/「アクセス」をクリックして、ユーザーがログインして Foxit アプリケーションにアクセスすることを無効/ 有効にします。[ユーザーの無効/ 有効](#) も参照してください。
- ユーザーリストの上にある検索ボックス、または詳細検索ボックスを使用して、指定したユーザー名/ 電子メールアドレス、またはアカウントステータスの種類（ライセンスが利用可能か取り消されているか）でユーザーを検索できます。[追加ユーザーの検索](#) を参照してください。
- ユーザーリストの上にある「同期されていないユーザーの表示」ボタンをクリックして、組織を離れた可能性のあるユーザーなど、最後にディレクトリと同期した後に、存在していないユーザーの一覧を表示します。「同期されたユーザーを表示」ボタンをクリックして、SAML ディレクトリのユーザーリストに戻ります。（ヒント：選択に基づき、ユーザーリストの上に表示されるユーザー数は、同期されたユーザー、または同期されていないユーザーの総数が表示されます。）

「書き出し」ボタンを使用して、ユーザーを CSV ファイルに書き出すこともできます。ユーザーを選択せずに「書き出し」をクリックした場合、リスト内のすべてのユーザーを書き出して出力されます。

追加ユーザータブ (オンプレミス環境のみ)

LDAP を使用したユーザー管理 セクション内の、[追加ユーザータブ](#) を参照してください。

招待ユーザータブ (オンクラウド環境のみ)

アカウントシステムに存在しない、Foxit アプリケーションへのアクセスを要求するユーザーについては、招待ユーザータブで電子メールで手動で招待できます。招待ユーザーの総数は、ユーザーリストの上に表示されます。(ヒント: ユーザーリストの上にある列ボタン  をクリックして、ユーザーの名前、電子メールアドレス、ステータスなど、ユーザーリストに表示する詳細を指定します。)

- ユーザーを招待するには、ユーザーリストの上にある「ユーザーを招待」ボタンをクリックし、「ユーザーを招待」を選択して、電子メールアドレスを入力し、「送信」をクリックします。または「CSV ファイルでユーザーを招待」と「一括操作結果」を選択して、CSV で複数のユーザーを招待し、操作結果を表示することもできます。
- ユーザーを CSV ファイルに書き出すには、ユーザーの横にあるボックスにチェックして必要なユーザーを選択し、ユーザーリストの上にある「ユーザーの書き出し」ボタンをクリックします。ユーザーを選択せずに「ユーザーの書き出し」をクリックすると、リスト内のすべてのユーザーを書き出して出力します。
- Admin Console からユーザーを削除してライセンスを取り消すには、ユーザーを選択してユーザーリストの上にある「削除」ボタンをクリックします。削除されたユーザーは、再び招待することができます。
- ユーザーをすばやく検索するには、検索ボックスにユーザーの名前/ 電子メールアドレスを入力し、Enter キーを押します。または、検索ボックスの下矢印をクリックして詳細検索ボックスをドロップダウンし、最終ログイン時刻が特定の期間内のユーザーを絞り込んでから「検索」をクリックします(「クリア」をクリックすると検索ボックスと詳細検索ボックスで指定した条件が削除されます)。必要に応じて、アカウントステータスの種類 (招待済み、招待承諾済み、または非アクティブ) を選択してユーザーを絞り込むことができます。
アカウントステータスは下記の 3 種類です:
 - 招待済み: ユーザーは招待を受け取っていますが、まだ承諾していません。
 - 招待承諾済み: ユーザーは招待を承諾しており、ユーザーに製品のライセンスを割り当てることができます。[ライセンスの管理](#) も参照してください。
 - 非アクティブ: ユーザーはアクティベーションを解除されており、Foxit 製品にアクセスできません。
- アクション列の非アクティブアイコン  をクリックしてユーザーからライセンスを削除します。ライセンスが非アクティブになると、ユーザーはライセンスを再び割り当てられるまで自分のアカウントにログインして製品をアクティベーションできなくなり、アクション列の非アクティブアイコン  がアクティブアイコン  に変化します。そしてステータスが、招待承諾済みから非アクティブに変更されます。アクティブアイコン  をクリックすると再びユーザーにライセンスが割り当てられます。
- アクション列の詳細アイコン  をクリックして、ユーザーの詳細を表示し、下記のいずれかを実行します:
 - 「編集」をクリックして、ライセンスを割り当てるか、またはユーザーの既存のライセンス情報を変更/ 削除します。ユーザーがグループに属し

ている場合、グループ名をクリックするとグループのページに切り替わり、そこでユーザーをグループから削除したり、別のグループに移動したりできます。

- 「パスワードのリセット」をクリックして、ユーザーにパスワードのリセットについてメールを送信し、パスワードを変更する必要があることをユーザーに通知します。
- 「非アクティブ」/「アクティブ」をクリックして、ユーザーがログインして Foxit アプリケーションにアクセスすることを無効/有効にします。
ユーザーの無効/有効 も参照してください。

グループ

各ユーザーを個別に設定したり設定の適用をしたりするのではなく、部門やプロジェクトチームなどのグループで複数のユーザーを管理できます。グループページでは、グループの作成と管理を行なうことができます。

グループを作成するには、下記を実行します:

1. 「**グループの作成**」をクリックします。ポップアップダイアログボックスにグループの名前と説明を入力して「**次へ**」をクリックします。
2. **ユーザーリスト**ボックスの左側でグループを選択します。次に、選択したグループのユーザーが、**ユーザーリスト**ボックスの右側に表示されます。グループに追加するユーザーを選択します。追加するすべてのユーザーを追加し終わるまで操作を繰り返します。**ヒント**: **ディレクトリユーザー**のグループの横の  記号をクリックすると、LDAP または SAML ディレクトリのグループ内のすべてのユーザーを追加できます。
3. (オプション) **追加ユーザー**ボックスで、カーソルをユーザーのメールアドレスまたはユーザー名の上に置くと、 記号が表示されます。必要に応じて  記号をクリックして、**追加ユーザー**ボックスからユーザーを削除します。
4. 「**保存**」をクリックします。グループリストにグループが追加されます。
5. (オプション) 必要に応じて**アクション**列のアイコンをクリックし、下記のタスクを実行します:
 - グループを削除するには、**削除アイコン**  をクリックします。
 - グループのユーザーリストを表示するには、対応するグループの**ユーザーを表示アイコン**  をクリックします。
 - グループを編集するには、**編集アイコン**  をクリックします。グループの名前/説明の編集、そしてグループ内のユーザーの追加/削除を行なうことができます。

グループの管理は、下記のいずれかを行ないます:

- ユーザーのグループを CSV ファイルに書き出すには、グループを選択してグル

ープリストの上にある「ユーザーの書き出し」ボタンをクリックします。選択せずに「ユーザーの書き出し」をクリックすると、リスト内のすべてのグループを書き出します

- グループを削除するには、グループを選択してグループリストの上にある「削除」ボタンをクリックします。
- グループを検索する場合は、グループの名前を入力して **Enter** キーを押します。

組織のカスタマイズ

LDAP/SAML ユーザーや追加ユーザーを含む Foxit Admin Console 内のすべてのユーザーは、組織単位 (OU) に追加できます。組織のカスタマイズページで、管理者は組織単位の子組織を作成、管理できます。

スーパー管理者 (またはシステム管理者/ ユーザーグループ管理者) の場合、組織のカスタマイズページの左側にある OU 名をクリックすると、すべてのユーザーが右側に一覧表示されます。OU のデフォルト名は、Foxit Admin Console 購入時に指定された会社名です。OU 名は、組織名を編集するのと同じ方法で編集できます (後述)。OU の下に組織の子として作成するには、次の手順を実行します:

1. ページの左側にある「組織の追加」ボタンをクリックすると、すべての部門が一覧表示されます。または組織の横にある縦に 3 個のドットのアイコンにカーソルを移動して「組織の追加」を選択します。(ノート: 組織を追加する前に、LDAP または SAML ディレクトリに接続していること、またはユーザーページでユーザーを追加していることを確認してください。)
2. ポップアップダイアログボックスで組織名を入力し、組織 (存在する場合) を親組織として選択します。新しい組織は子組織として下にリストされます。「OK」をクリックして続行します。
3. 上記の後、組織リストに新しい組織が登録されます。組織をクリックし、ページ右側の「ユーザーを追加」をクリックします。または CSV でユーザーを追加し、操作結果を表示することもできます。
4. ポップアップする「ユーザーを追加」ダイアログボックスで、ユーザーリストボックスの左側にあるグループを選択します。その後、選択したグループのユーザーがユーザーリストボックスの右側に表示されます。組織に追加するユーザーを選択してください。追加するすべてのユーザーを追加するまで繰り返します。ヒント: LDAP または SAML ディレクトリのグループ内のすべてのユーザーを追加するには、ディレクトリユーザーでグループの横にある  記号をクリックします。
5. (オプション) 選択したユーザーボックスで、カーソルをユーザーのメールアドレスまたはユーザー名の上に置くと  記号が表示されます。必要に応じて  記号をクリックしてボックスからユーザーを削除します。
6. 完了したら「OK」をクリックします。必要に応じて「ユーザーを追加」ボタンをクリックし、組織にユーザーを追加できます。

組織の作成後、より多くのアクションを実行できます:

- ユーザーリストの上にある列ボタン  をクリックして、ユーザーの名前、電子メール アドレス、ステータスなど、ユーザーリストに表示する詳細を指定します (オンクラウド環境のみ)。
- 組織名を編集したり組織を削除したりするには、部門の横にある縦に 3 個のドットアイコンの上にカーソルを移動し、「組織を編集」または「削除」を選択します。
- 組織からユーザーを削除するには、組織を選択し、対象のユーザーに移動して、アクション列の削除アイコン  をクリックします。複数のユーザーを削除する場合は、ユーザー名の前にあるボックスをチェックしてユーザーを選択し、ユーザーリストの上にある「削除」ボタンをクリックします。
- ユーザーを他の組織に移動するには、ユーザーを選択し、ユーザーリストの上にある「移動先」ボタンをクリックします。ポップアップダイアログボックスで、対象の組織を選択し「OK」をクリックします。
- 組織の順序を調整するには、移動する組織を目的の場所にドラッグします。組織を別の組織 (親組織) の下に置くこともできます。例えば、組織 A を組織 B の下に配置するには、組織 A を組織 B にドラッグして、ポインターが組織 B の上にあるときにマウスボタンを離します。

製品管理者 である場合:

- 組織のカスタマイズページの左側には、スーパー/ システム管理者によって割り当てられた組織/ ユーザーのみを含む、割り当てられた「OU」が表示されます。Admin Console に表示される割り当てられた「OU」とその組織の名前は、スーパー/ システム管理者の管理コンソールの名前と同様です。
- スーパー/ システム管理者による組織の変更 (組織名の変更、組織メンバーの追加 / 削除など) は、割り当てられた「OU」内の組織に同期されます。
- 割り当てられた「OU」内の組織にユーザーを追加できます。ユーザーを追加する方法の詳細は、ユーザーのセクションの、[追加ユーザータブ](#) を参照してください。追加したユーザーは、スーパー/ システム管理者が管理する OU にも同期されます。アクション列の削除アイコン  をクリックすると、追加したユーザーを削除できます。

管理者ロールの管理

大きな組織の場合、Foxit Admin Console で管理を行なうため、1 人のスーパー管理者と他の複数の管理者 (システム管理者、製品管理者、導入管理者など) を持つことができます。スーパー管理者は、他のすべての管理者ロールの最上位に位置し、Admin Console のすべてのタスクを実行できます。

管理者ロールページでは、スーパー管理者およびシステム管理者は、管理者の追加 (管理者ロールを他のユーザーに割り当てる)、管理者の削除 (管理者権限の取り消し)、および管理者の検索を行うことができます (ヒント: 必要に応じて、スーパー管理者は別のユーザーに管理者権限を与えることができます。詳細については、[管理者権限の移譲](#) を参照してください)。以下の表は、さまざまな種類の管理者を簡単に紹介したものです。管理者の各タイプのアクセス許可と権限の詳細については、[管理者権限マトリクス](#) を参照してください。

ロール	説明
Super Administrator (スーパー管理者)	The super admin for the enterprise with the ability to activate Foxit Admin Console, and perform all administrative tasks in the Admin Console. Also, has permissions to “ dissolve the company ” in Foxit Admin Console, transfer his administrative privileges to another user, and assign users different administrative roles.
System Administrator (システム管理者)	Has all permissions that the super admin does except for the ones to activate Admin Console, dissolve a company, and transfer administrative privileges.
Product Administrator (製品管理者)	Manages the products assigned by the super admin and performs all associated administrative tasks, including: <ul style="list-style-type: none"> • Add users to owned departments • Remove users (added by himself previously) from owned departments • Set or change the product strategy (See also Product Configuration)
User Group Administrator (ユーザーおよびグループ管理者)	Administers the user groups assigned by the super admin and performs all associated administrative tasks, including: <ul style="list-style-type: none"> • Add or delete users and user groups • Add or remove users to/from groups
Deployment Administrator (導入管理者) (On-premise environments only)	Configure the settings of Foxit product updates, which include: <ul style="list-style-type: none"> • Specify the products and the version types (Major Version, Minor Version, Maintenance Version, etc.) to be updated • Set the frequency of automatic checks for software updates • Specify the users who need to update the products and set the update time • Specify the products and the versions (the specific version number) to be rolled back
Configuration Administrator (設定管理者)	Configure enterprise general settings, including: <ul style="list-style-type: none"> • Set the enterprise customization • Configure a mail server • Set Windows Authentication

ヒント: 管理者の権限は管理者ロールの種類によって異なるため、Foxit Admin Consoleの一部の項目や機能は、管理者によっては利用できないか、見えない場合があります。

管理者の追加

1. 管理者ロールページで「**管理者の追加**」をクリックします。
2. テキストボックスにユーザーのメールアドレス (またはユーザー名) を入力して「次へ」をクリックします。

3. 1 つまたは複数の管理者ロールを選択して「次へ」をクリックします (または「前へ」をクリックして前の手順に戻ります)。
製品管理者を選択した場合は、対象の製品、ユーザー (すべてのユーザーまたは特定の部門を選択)、および製品管理者が管理する製品の使用可能なライセンス数を指定します。
4. 「保存」をクリックして操作を確定します。管理者ロールページの管理者リストに設定したユーザーが追加されます。
5. (オプション) アクション列の編集アイコン  をクリックしてユーザーの管理者ロールを変更することができます。

ヒント: ユーザーの管理者ロールを追加/ 編集すると、ユーザーにはロールの割り当てに関する通知メールが届きます。

管理者の削除

管理者を削除するには、管理者リストの該当する管理者に移動して、アクション列の削除アイコン  をクリックします。管理者を削除しても、ユーザーから管理者権限が取り消されるだけで、Admin Console からユーザーが削除されることはありません。また、ロールの取り消しに関する通知メールがユーザーに送信されます。

管理者権限マトリクス

管理者の権限は、管理者ロールの種類によって異なります。以下の表は、各タイプの管理者のアクセス許可と権限の詳細なリストです。

領域	アクセス許可	Super Admin	System Admin	Product Admin	User Group Admin	Deployment Admin	Configuration Admin
Home	View the Home page	✓	✓	✓			
Identity Management	Add a domain	✓	✓				
	View domain details and domain listing	✓	✓				
User Management	Add users to org (i.e., the organization)	✓	✓		✓		
	Remove users from org	✓	✓		✓		
	View user details and user listing	✓	✓		✓		
	Edit user profiles	✓	✓		✓		
	Bulk add users to org	✓	✓		✓		
User Group Management	Create user groups	✓	✓		✓		
	Remove user groups	✓	✓		✓		
	Add users to user groups	✓	✓		✓		

	Remove users from user groups	✓	✓		✓		
	View members of user groups	✓	✓		✓		
	View the list of user groups	✓	✓		✓		
Organization Management	Create departments	✓	✓		✓		
	Remove departments	✓	✓		✓		
	Add users to departments	✓	✓	✓ ³	✓		
	Bulk add users to departments	✓	✓	✓ ³	✓		
	Remove users from departments	✓	✓	✓ ⁴	✓		
	View members of departments	✓	✓	✓	✓		
Administrator Management	Grant System Admin to a user	✓	✓				
	Revoke System Admin from a user	✓	✓				
	Grant Product Admin to a user	✓	✓				
	Revoke Product Admin from a user	✓	✓				
	Grant Deployment Admin to a user	✓	✓				
	Revoke Deployment Admin from a user	✓	✓				
	Grant User Group Admin to a user	✓	✓				
	Revoke User Group Admin from a user	✓	✓				
	Grant Product Admin to a user	✓	✓				
	Revoke Product Admin from a user	✓	✓				
	Edit roles of admins	✓	✓				
Product License Management	Provision a product license to a user	✓	✓	✓ ³			
	Deprovision a product license from a user	✓	✓	✓ ³			
	Restore activation	✓	✓	✓ ³			
	Assign licenses with a CSV file	✓	✓	✓ ³			
	Remove licenses with a CSV file	✓	✓	✓ ³			
	Export users	✓	✓	✓ ³			
	Choose packages to download	✓ ²	✓ ²			✓ ²	

Update Management	Set automatic update check interval	✓ ²	✓ ²			✓ ²	
	Automatically allow end users to download available packages (downloaded from Foxit server)	✓ ²	✓ ²			✓ ²	
	Set scheduled update	✓ ²	✓ ²			✓ ²	
	Configure rollback settings	✓ ²	✓ ²			✓ ²	
	Set up a proxy server	✓ ²	✓ ²			✓ ²	
Product Management	Update product licenses	✓	✓				
	View available products	✓	✓				
Reports Management	View the Reports page	✓	✓	✓ ³			
	Export user activation data	✓	✓				
	Export user data	✓	✓				
Settings Management	View and edit enterprise branding (such as enterprise logo)	✓	✓				✓
	Set mail servers	✓ ²	✓ ²				✓ ²
	Configure Windows Authentication	✓ ²	✓ ²				✓ ²
Product Configuration	View the Product Configuration page	✓	✓	✓ ³			
	Set or change product strategy	✓	✓	✓ ³			
Support	View the Support page	✓ ¹					
	Manage support cases	✓ ¹					
Content logs	View the Content Logs page	✓	✓				
	Search logs	✓	✓				
My Profile	Dissolve a company	✓ ¹					
	Transfer admin privileges	✓					

¹ オンクラウド環境のみ

² オンプレミス環境のみ

³ 製品管理者の管轄する製品または部門のみ

⁴ あらかじめ製品管理者によって追加されたユーザーのみ

ライセンスの管理

購入された各製品のライセンスプランに基づいて、組織全体のライセンス管理を実行できます。

Foxit Admin Console は Foxit PDF Editor のライセンスを管理するためのアカウントモー

ドをサポートしています。アカウントモードは、各エンドユーザーが自分のアカウントにログインすると Foxit PDF Editor をアクティベーションできるライセンスモードであり、管理者はアプリケーションのアクティベーションを許可されているユーザーや、アプリケーションのどのエディションをアクティベーションできるかなど、正確かつ柔軟な制御を適用できます。Foxit Sign のライセンス管理では、ユーザー数分のエンベロップを事前に購入し、ユーザーはライセンスを割り当てられた後、都合に合わせてエンベロップを使用することができます。(ヒント: エンベロップを使用すると、複数の署名者に送る場合でも、1回の送信で1つ以上の文書を送信することができます)。

ノート:

1. IP アドレスと MAC アドレスが指定された範囲内にあるクライアントのみ、Foxit PDF Editor のアクティベーションが許可されます。[クライアントアクティベーションポリシー](#) を参照してください。
2. ライセンスを割り当てるときに、割り当てるライセンス数が購入したライセンスの数を超える場合は、確認メッセージが表示されます。

ライセンスを管理する

ライセンスの管理ページでは、ライセンスの割り当て/ 変更/ 割り当ての解除、割り当てられたユーザーの詳細を表示できます (ヒント: ユーザーリストの上にある列ボタン  をクリックして、ユーザーの電子メール アドレス、ライセンス、アクティベーションのステータス、割り当てた時刻、MAC アドレスなど、割り当てられたユーザーのリストに表示する詳細を指定できます)。

条件を指定して特定のユーザーを検索できます。検索ボックスの下には、使用可能なライセンス総数のうち、使用されている (割り当てられている) ライセンス数など、ライセンスの使用情報が表示されます。ユーザーを CSV ファイルに書き出すには、必要なユーザーを選択し、ユーザーリストの上にある「書き出し」ボタンをクリックします。

ユーザーにライセンスを割り当てる

1. 「ライセンスの割り当て」ボタンをクリックします。「ライセンスの割り当て」を選択してユーザーを選択し、選択したユーザーにライセンスを割り当てます。
2. ポップアップダイアログボックスで、ユーザーリストボックスの左側にあるグループを選択します。その後、選択したグループのユーザーがユーザーリストボックスの右側に表示されます。ライセンスを割り当てるユーザーを選択してください。追加するすべてのユーザーを追加するまで繰り返します。
3. 選択したユーザーに割り当てるライセンスを選択します。
4. (オプション) 企業向けプランでは、ユーザーが複数のデバイスで Foxit 製品をアクティベートできるライセンスを購入できます。このタイプのライセンスでは「許可されたデバイス数」の項目がダイアログ ボックスに表示され、ログインを許可するデバイスの数を指定できます。
5. 「OK」をクリックします。

以下の手順に従って、CSV ファイルを使用して複数のユーザーにライセンスを割り当てることもできます:

1. 「**ライセンスの割り当て**」ボタンをクリックします。「**CSV ファイルでライセンスを割り当て**」を選択して、CSV ファイルにリストされているユーザーにライセンスを割り当てます。
2. ポップアップダイアログボックスで、CSV ファイルを使用して、同じタイプのライセンスを複数のユーザーに割り当てたり、ユーザー毎に異なるライセンスを割り当てたりすることができます。
 - 複数のユーザーに同じ種類のライセンスを割り当てる場合は、**ユーザーの CSV タブ**をクリックしてください。CSV ファイルをボックスにドラッグするか、「**参照**」をクリックして CSV ファイルを選択します。CSV ファイルには、ライセンスを割り当てるユーザーを指定します。そして割り当てるライセンスの種類を選択します (**ヒント**: CSV ファイルの作成方法については「**サンプル CSV をダウンロード**」をクリックして参照してください)。
 - ユーザーごとに異なるライセンスを割り当てるには、**ユーザーと製品の CSV タブ**をクリックしてください。CSV ファイルをボックスにドラッグするか、「**参照**」をクリックして CSV ファイルを選択します。CSV ファイルには、ライセンスを割り当てるユーザーと、各ユーザー毎のライセンスを指定します。CSV ファイルの作成方法については「**サンプル CSV をダウンロード**」をクリックして参照してください。
3. 「**OK**」をクリックします。

ユーザーの製品ライセンスを変更する

1. **アクション列の詳細アイコン**  をクリックすると、右側にユーザー情報ダイアログボックスが表示します。
2. 「**編集**」をクリックして、使用する製品のライセンスを選択し「**保存**」をクリックします。

ユーザーからライセンスを削除する

ユーザーからライセンスを削除するには、以下のいずれかを実行します:

- ユーザーリストからユーザーを選択し、ユーザーリストの上にある「**ライセンスの削除**」ボタンをクリックして、「**ライセンスの削除**」を選択します。
- 「**ライセンスの削除**」ボタンをクリックして、「**ライセンスの一括削除**」を選択すると、Admin Console のユーザーリストで選択している複数のユーザーからライセンスの割り当てを解除します。
- 「**ライセンスの削除**」ボタンをクリックして「**CSV ファイルでライセンスを削除**」を選択すると、CSV ファイルで指定した複数のユーザーからライセンスの割り当てを解除します。次に「**ライセンスの削除**」ボタンをクリックし、「**一括操作結果**」を選択して、ライセンスを削除した後の結果を表示できます。正常に削除されなかったライセンスが、結果に表示されます。

ユーザーからライセンスの割り当てを解除すると、ユーザーは自分のアカウントでログインして Foxit アプリケーションをアクティベーションできなくなります。

アクティベーションの復元 (Foxit PDF Editor Windows および Mac のみ)

ユーザーが1つのデバイスのみ Foxit 製品をアクティベーションできるライセンスを割り当てられていて、そのユーザーがデバイス1で Foxit 製品を正常にアクティベーションした後、何らかの理由でデバイス2で製品をアクティベーションする必要がある場合(デバイス1が故障する等)、アクティベーションを復元し、別デバイスでユーザーがサインインして製品を再度アクティベーションできるようにすることができます。実行するには、該当のユーザーを選択してユーザーリストの上にある「**アクティベーションの復元**」をクリックします。

内部更新の環境設定 (オンプレミス環境のみ)

オンプレミスのエンタープライズ環境では、内部更新サーバーが Foxit Web サーバーに要求を送信して Foxit 製品の最新バージョンを取得し、企業内のクライアントは内部更新サーバーからのみ更新を取得します。Foxit Admin Console の**内部更新**の項目を使用して、Foxit Webサーバーから最新のインストールパッケージを取得する方法と、企業内のエンドユーザーにパッケージの更新を展開する方法を設定できます。

環境設定

環境設定ページでは、Foxit Webサーバーからダウンロードするパッケージと、企業内の更新設定を指定できます。設定が完了したら、ページの下部にある「**保存**」をクリックします。指定した設定をすべて消去する場合は、「**リセット**」をクリックします。

- **ダウンロードするパッケージ:** Foxit サーバーから自動的にダウンロードするパッケージを選択します。ダウンロードしたパッケージは、バージョン管理で表示および管理できます。
- **自動更新チェックの間隔:** 内部更新サーバーが Foxit Web サーバーから新しい製品パッケージを自動的にチェックする頻度を指定します。
- **ダウンロードしたパッケージを自動承認:** スイッチをオンにすると、自動承認のオプションが有効になり、企業内のすべてのエンドユーザーが、Foxit サーバーからダウンロードされた利用可能なすべてのパッケージをダウンロードできるようになります。この設定は、設定した後に Foxit サーバーからダウンロードされたパッケージにのみ適用されます。デフォルトでは、このオプションは無効になっており、すべてのパッケージのダウンロードを手動で承認する必要があります。
- **定期更新の設定:** 「指定ユーザーまたはグループの更新スケジュールを設定」のオプションを選択して、ユーザーごとに異なる時間を設定して更新プログラムをインストールすることで、サーバーと帯域幅への負担を軽減することができます。
 - 「追加」をクリックして「ユーザーの追加」「IP アドレスの追加」または「**MAC アドレスの追加**」を選択し、スケジュールを設定する電子メールまたはユーザー名、IP、または Mac アドレスを追加します。追加したユーザーはすべて下のリストに登録されます ([**MAC アドレスの追加**] を選択した場合は、ポップアップダイアログボックスの「複数の MAC アドレスの追加」をクリックして、追加する MAC アドレスのリストを含む

CSV ファイルを読み込むことで、一度に複数の MAC アドレスを追加できます)。

- 「**時間の編集**」をクリックして選択したユーザーのスケジュール時刻を選択します。
- ユーザーの定期更新の設定を削除するには、リストからユーザーを選択し「**削除**」をクリックします。
- **ロールバック設定**: 更新に問題が見つかったり、更新でエンドユーザーに問題が発生したりする場合があります。このようなとき管理者は、ロールバックの設定を構成し、クライアントが一時的に1つまたは複数前のバージョンにロールバックするように強制できます。例えば「**Foxit PDF Editor のバージョンをロールバック**」オプションにチェックし、ロールバックするバージョンとロールバック先の有効なバージョンを選択します。**ノート**: ロールバックに対応するのはメインパッケージのみです。以前のバージョンにロールバックすると、そのバージョンと既定のコンポーネントがインストールされますが、レジストリ内のデータと GPO テンプレートは保持されます。
- **ネットワークのプロキシ設定**: 必要に応じて Foxit サーバーに接続するプロキシサーバーの設定を行ないます。

バージョンの管理

Admin Console の**バージョンの管理**ページには、Foxit サーバーからダウンロード済み、ダウンロード中、および正常にダウンロードされなかったすべてのメインパッケージとプラグインパッケージの一覧が表示されます。パッケージをフィルタリング/削除したり、配布の承認を設定してエンドユーザーが使用できるパッケージを制限したりできます。

- パッケージの詳細を表示するには、**アクション列の詳細アイコン**  をクリックします。Admin Console ウィンドウの右側に詳細パネルが表示されます。パネルを閉じるには、パネル右上隅の **X** ボタンをクリックします。
- パッケージをフィルタリングするには、検索ボックスまたは詳細検索ボックスで必要に応じて、パッケージ名/バージョン/サイズを指定する、承認ステータスまたはダウンロード完了時間を選択します。[追加ユーザーの検索](#) も参照してください。
- パッケージを削除するには、パッケージを選択してパッケージリストの上にある「**削除**」ボタンをクリックします。
- ユーザーにパッケージへのアクセス許可を付与する場合、または承認ステータスが現在未承認の場合は、パッケージを選択し**アクション列の承認アイコン**  をクリックします (または、パッケージリストの上にある「**承認**」ボタンをクリックします)。そしてポップアップダイアログボックスで、下記のいずれかを実行します:
 - 組織内のすべてのクライアントにパッケージのダウンロードを許可するには、「**すべてのクライアントを更新できるようにパッケージを承認**」を選択します。そして「**承認**」をクリックします。
 - 一部の指定したクライアントがパッケージをダウンロードできるようにするには「**特定のクライアントが更新するパッケージを承認**」を選択して、ユーザーの電子メールまたはユーザー名、IP アドレス範囲、または MAC アドレスを選択して、特定のクライアントを追加します (MAC アドレスのリストを含む CSV ファイルを読み込んで、複数の MAC アドレスを一度に追加することもできます)。そして「**承認**」をクリックします。

- (オプション) 重要な変更またはセキュリティ更新を含むパッケージの場合は「クライアントに更新パッケージのインストールを強制する」オプションを選択して、強制的に更新できます。このときパッケージのステータスは**プッシュ済み**と表示され、選択されたすべてのクライアントは、パッケージをダウンロードしてインストールする必要があります。
- ユーザーがパッケージをダウンロードできないようにするには、パッケージを選択して、**アクション列のキャンセルアイコン**  をクリックします。またはパッケージを選択して、パッケージリストの上にある「承認しない」ボタンをクリックして、ダウンロードを無効にします。パッケージが承認済み/承認されなくなると、ステータス列には、**承認済み**または**承認しない**とそれぞれ表示されます。
- (オプション) パッケージの承認ステータスが、**承認済み**または**プッシュ済み**の場合、**アクション列の編集アイコン**  をクリックして承認の設定を変更できます。

メインパッケージとアドオンパッケージはどちらも「**ダウンロード済み**」「**ダウンロードに失敗**」および「**ダウンロード中**」の3つのタブに分類されます。メインパッケージの例を以下に示します:

- **ダウンロード済み**タブでは、各パッケージの名前、バージョン番号、ダウンロード完了時間、サイズ、承認ステータス、および実行できるアクションを表示できます。パッケージの承認ステータスに応じて、**アクション列**で使用できるアクションが異なります。
- **ダウンロードに失敗**タブでは、正常にダウンロードされなかったパッケージと、失敗した時間と理由のリストが表示されます。パッケージを削除するには、パッケージを選択して「**削除**」ボタンをクリックします (パッケージを選択すると、パッケージリストの上に表示されます)。ダウンロードを再開するには、パッケージを選択して「**再試行**」ボタンをクリックします。
- **ダウンロード中**タブでは、現在ダウンロード中のパッケージのリストが表示されます。パッケージ名、バージョン番号、開始時刻 (ダウンロードの開始時刻) など、各パッケージの詳細を表示できます。

製品

製品ページには、法人の購入したすべての製品とライセンスが一覧表示されます。法人がライセンスまたは製品を追加購入した場合は、以下の手順を実行して、このページに表示される製品とそのライセンス情報を更新できます。:

1. **製品**ページの上部にある「**ライセンスの更新**」をクリックします。オンクラウド環境では、「**ライセンスの更新**」をクリックすると更新プロセスが開始されます。更新が完了するまでお待ちください。オンプレミス環境では、次の手順 2 に従い更新を完了してください:
2. ポップアップダイアログボックスで「**オンライン更新**」または「**オフライン更新**」を選択します。
 - **オンライン更新**には、インターネット接続が必要です。「**接続**」をクリックしてアカウントでサインインし、ライセンスを更新します。

- インターネットにアクセスできない環境の場合は「参照」をクリックして製品のキーファイルを選択します。(キーファイルをまだ取得していない場合は「入手」をクリックして、ポップアップダイアログボックスで Admin Console のサーバーID を取得してください。そしてこのサーバーID を電子メールで Foxit に連絡してください。確認後、Foxit チームからキーファイルの発行についてご案内をお送りします。)

製品ページでは、Admin Console と各製品の詳細情報を表示できます。これには有効期限、ソフトウェアのバージョン番号、使用可能なライセンスの総数のうち使用されている(割り当てられている)ライセンスの数が含まれます。

製品の上にカーソルを移動すると、オレンジ色の矢印アイコン  が表示されます。アイコンをクリックすると、**ライセンスの管理**ページが開き、ライセンスを表示および管理できます。「製品の設定」をクリックするか、各製品の下にある歯車アイコン  をクリックして、**製品の設定**ページで製品の設定をすることもできます。詳細は、[ライセンスの管理](#) および [製品の設定](#) を参照してください(ノート: Foxit Sign については「製品の設定」をクリックすると、Foxit Sign Web サイトの**設定**ページに切り替わります。)

レポート

レポートページには、ライセンスの合計数、割り当てられたライセンス、アクティベーションされたライセンス、およびアクティブなユーザーなど、ライセンスの使用状況に関する概要および詳細な統計が表示されます。管理者は必要に応じて、表示する統計を指定したり、必要なデータを書き出したりエクスポートしたりできます。

レポートページで**ライセンスの使用状況**タブをクリックすると、ライセンスの使用状況に関する概要データをグラフで表示できます。

- 必要な特定の統計をグラフに表示するには、次のいずれかを実行します。
 - ◇ 製品を選択すると、製品に関連する統計情報が表示されます。
 - ◇ 統計情報の表示する期間を選択します。
 - ◇ 総ライセンス数、割り当てられたライセンス、アクティベーションされたライセンス、アクティブユーザー数など必要な統計情報を選択します。
- 指定したデータを CSV ファイルに書き出すには、下記のいずれかを実行します:
 - ◇ データを CSV ファイルに書き出すには、ページの右上隅にある「**データの書き出し**」ボタンをクリックし「**データをローカルに書き出し**」を選択します。そしてファイルを保存します。
 - ◇ データを (CSV ファイルで) 書き出してアカウントに電子メールで送信するには、「**データの書き出し**」ボタンをクリックし、「**電子メールでデータを送信**」を選択します。

使用状況の詳細タブでは、ユーザーの名前、電子メールアドレス、ライセンスの種類、MAC アドレスと IP アドレス、ステータスなど、詳細な使用状況データを表示および書き出すことができます。

ノート: 詳細なユーザーデータを書き出すと、Admin Console から削除されたユーザーを含め、指定された条件を満たすユーザーのすべてのインスタンスが書き出されます。

設定

認証の設定

認証の設定ページでは、管理者 (スーパー管理者、システム管理者、設定管理者) はパスワード認証ポリシーのレベルを選択または変更して、組織全体のすべてのユーザーに適用できます。

メールサーバー (オンプレミス環境のみ)

エンタープライズの管理者は、Foxit Admin Console が使用する SMTP メールサーバーを設定して、更新通知やレポートなどの電子メールメッセージをエンドユーザーに送信することができます。通常、企業自体が通知を担当するオンプレミス環境では、SMTP メールサーバーを構成する必要があります。メールサーバーページで、メールサーバーを設定し、設定したメールサーバーをテストできます。

メールサーバーの設定

メールサーバーを設定するには、メールサーバーページに移動し、「設定」をクリックして、必要に応じて以下のフィールドに入力し、編集が完了したら「保存」をクリックします。メールサーバーが追加されると、メールサーバーページの編集アイコン  をクリックしてサーバー情報を変更したり、削除アイコン  をクリックしてメールサーバーを削除したりできるようになります。

SMTP サーバーの詳細

- 名前 – Foxit Admin Console でメールサーバーを識別するための名前を入力します。
- 送信元アドレス – Foxit Admin Console が通知メールを送信するために使用するメールアドレスを入力します。
- 送信元名前 – 通知メールに表示される送信元の名前を入力します。
- 件名の接頭辞 – 通知メールの件名の先頭に表示するテキストを入力します。

ヒント: メール テンプレートの詳細情報をカスタマイズできます。詳細は、[エンタープライズブランドのカスタマイズ](#) を参照してください。

サーバーホスト名

- サーバーホスト名 - メールサーバーのホスト名または javax.mail セッションオブジェクトの JNDI ロケーションを入力します。
- サーバーポート – メールサーバーが使用するポートを入力します。
- ユーザー名 – メールサーバーへの接続に使用するユーザー名を入力し、下にパスワードを指定します。

- TLS の使用 - SMTP サーバーが Transport Layer Security (TLS) プロトコルを使用する場合は、このオプションを選択します。

メールサーバーのテスト

メールサーバーが正しく設定されていることを確認するため、「テスト」ボタンをクリックしてテストメールを送信できます。ポップアップするテストメールの送信ダイアログボックスで、受信者を指定し、件名、メッセージのタイプ、およびメッセージを入力します。次に「OK」をクリックして電子メールを送信します。テストメールの送信ダイアログボックスのログボックスにテキストメッセージが表示され、メールが正常に送信されたかどうか確認できます。

エンタープライズブランドのカスタマイズ

エンタープライズカスタマイズページでは、管理者はクライアントの Foxit PDF Editor のログインウィンドウのロゴと、エンドユーザーにメールを送信するために使用されるメールテンプレートを、会社のブランドに合わせてカスタマイズまたは変更できます。

クライアントのログインページのカスタマイズ: (オンプレミス環境のみ)

「参照」をクリックして、ロゴの画像を選択しボックスにサーバー名を入力します。ロゴとサーバー名の両方が、クライアントの Foxit PDF Editor のログインウィンドウに表示されます。

メールテンプレートのカスタマイズ:

「参照」をクリックして、電子メールのロゴの画像を選択しエンドユーザーに送信される電子メールメッセージの下部に表示される会社名を入力します。

設定が完了したら「保存」をクリックします。または「リセット」をクリックしてデフォルト設定に戻します。

Foxit PDF Editor Cloud のカスタマイズ (オンクラウド環境のみ)

Foxit PDF Editor Cloud Web ページに表示される会社のロゴと会社名をカスタマイズします。

Windows 認証 (オンプレミス環境のみ)

[統合 Windows 認証](#) によりユーザーは Windows 資格情報を使用してアプリケーションにログインすることができます。Active Directory (AD) ドメインを有効にしている企業の場合、管理者は Admin Console で AD ドメイン情報を構成し、AD ユーザーが AD アカウントでログインして製品を自動的にアクティベーションできるようにすることができます。

全体として Windows 認証には、Admin Console での設定とクライアントの設定の、2つの重要な手順が必要です。

Admin Console での設定

設定ページ配下の **Windows 認証** ページに移動し、組織が使用する AD ドメインの情報を入力します。

- ドメイン名 - Windows AD ドメイン名
- IP アドレス - AD ドメインコントローラーの IP アドレス
- ホスト名 - AD ドメインコントローラーのホスト名
- コンピューターアカウント - ドメインコントローラーのコンピューターアカウント; まだ作成していない場合は、ページの下部にある「**上記の設定を取得する方法**」をクリックして、アカウントとパスワードを作成します。
- パスワード - ドメインコントローラーのパスワード
- メールドメイン - 電子メールのドメイン; このフィールドを空のままにすると、システムはコンピューターアカウントのドメイン名を使用します。
- リセット - **Windows 認証** ページの下部にある「**リセット**」をクリックして、上で入力したすべてのデータをクリアします。

設定が完了したら、「**保存してテスト**」をクリックします。設定に成功するとプロンプトが表示され、次の手順に進んでクライアントの設定を行なうことができます。

クライアントの設定

AD ドメインのクライアントデバイスで、下記の手順を実行して Internet Explorer を設定します。

1. Internet Explorer を起動します。
2. インターネットオプション > 詳細設定 > 設定 > セキュリティ > 「統合 Windows 認証を使用する」を有効にします。
3. Internet Explorer を再起動します。
4. インターネットオプション > セキュリティ > ローカルイントラネット > サイト > 「詳細設定」をクリックします。**Windows 認証** ページに表示された URL を「**Web サイト**」ボックスにコピーします。(ノート: URL は、Admin Console が組織で設定された後に自動的に生成されます。)
5. インターネットオプション > セキュリティ > ローカルイントラネット > レベルのカスタマイズ > ユーザー認証 で「**イントラネットゾーンでのみ自動的にログオンする**」を選択します。

製品の設定

Foxit アプリケーションへのアクセスをより適切かつ正確に制御するために、クライアントでの Foxit PDF Editor のアクティベーションポリシーなど、**製品の設定** ページで多くの設定を行なうことができます。各製品をクリックすると、対応する設定ページが開き、必要に応じて設定することができます。(ノート: Foxit Sign をクリックすると、Foxit Sign Web サイトポータル ホームページが開きます。Foxit Sign にログインした後、設定を行う必要があります。詳細は Foxit Sign のマニュアルを参照してください。)

クライアントアクティベーションポリシー (Foxit PDF Editor)

ライセンスモデル: 製品のライセンスを管理するために使用している現在のライセンスモードが表示されます (オンプレミス環境のみ)。

認証モデル: ユーザーにライセンスを割り当てる認証モデルを選択します。この設定は、Admin Console で LDAP が設定されているオンプレミス環境でのみ使用できます。

- **手動認証:** このモデルを選択すると、管理者はライセンスを割り当てるユーザーを指定できます。割り当てられたユーザーのみが、自分のアカウントでログインした後、Foxit PDF Editor を正常にアクティベーションできます。デフォルトではこのモデルが選択されています。
- **自動認証:** このモデルを選択すると、利用可能なライセンスがある限り、各ユーザーは自分のアカウントでログインして Foxit PDF Editor をアクティベーションできます。
自動認証モデルでは、同じ製品に複数のライセンスタイプがある場合、クライアントの認証の優先順位を指定する必要があります。クライアントは指定された優先順位で利用可能なライセンスを使用し、製品を自動でアクティベーションします。優先度の高いライセンスは、優先度の低いライセンスの前に使用されます。

IP アドレスの範囲制限: IP アドレスまたは範囲を指定して、IP アドレスが指定された範囲内にあるクライアントのみが Foxit PDF Editor を起動できるようにします (オンプレミス環境のみ)。

オフライン利用可能時間: 「オフラインで Foxit PDF Editor の使用を許可(日数): n 日間」 オプションを選択して、デバイスが Admin Console サーバーに接続されていない場合 (デバイスの電源がオフになっている場合やインターネットに接続されていない場合など)、デバイスの Foxit PDF Editor のアクティベーションが無効になるまでの期間を指定できます。通常、サーバーに接続できないことで無効になった場合、Foxit PDF Editor はライセンスを取り消されたり有効期限が終了したりしない限り、ユーザーはサーバーにデバイスを接続すれば、再びアクティベーションすることができます。

自動解除: 一定期間 Foxit PDF Editor を起動しないユーザーは、ライセンスが自動的に取り消されます。必要に応じて期間の指定が可能です。最短は 90 日です。

MAC アドレスの範囲制限: MAC アドレスを指定して、指定された MAC アドレスを持つクライアントのみが Foxit PDF Editor を起動できるようにします。追加する MAC アドレスのリストを含む CSV ファイルを読み込むことで、一度に複数の MAC アドレスを追加することもできます。

ネットワークドライブ連携設定 (Foxit PDF Editor Cloud)

Foxit PDF Editor Cloud と連携するネットワークドライブを指定できます。ユーザーは設定したネットワークドライブから PDF ファイルを開いたり保存したりできます。

ログのクリーンアップ設定

必要に応じて、古いログを消去しログデータが占有しているディスク容量を減らすことができます。これを行うには、**ログのクリーンアップ設定**ページで、**ログの自動クリーンアップ**のプロセスを有効にし、期間 (N 日) を指定して N 日より古いログデータを削除します。

サポート (オンクラウド環境のみ)

製品についてご不明点などございましたら、サポート窓口までご相談ください。サポートサービスの提供につきましては、**サポート**ページで以下のいずれかの操作を実行してください:

- 「**チケットを作成**」をクリックしてサポートチケットを窓口送信します。
- 「**問題の表示**」をクリックして送信したすべてのチケットを確認、検索できます。
- 「**表示**」をクリックして管理者ガイドを開き、必要な説明を確認できます。
- もしくはメールにて詳しい内容をお知らせください。

コンテンツログ

Admin Console での管理者のアクションと、クライアントから収集されたユーザーデータをトラッキングします。**コンテンツログ**には、管理操作ログ、内部更新ログ、ロールバックログの 3 種類のログがあります。

管理者が Admin Console で実行した操作は、管理操作ログと内部更新ログに記録されます。ページのリストから、アクションがいつ実行されたか、アクションのタイプ (イベントの種類)、ステータス (アクションが正常に実行されたかどうか)、オペレーター (どの管理者がアクションを実行したか) などの詳細を確認できます。

ロールバックログには、ユーザーまたはデバイスがバージョンをロールバックしたイベントが記録されます。ロールバックした時刻、ユーザーの電子メールまたはユーザー名、関連製品、ロールバック先のバージョン、ユーザーの MAC アドレスなどが含まれます

- 管理操作ログ - 管理者が行なったすべての操作を記録します。
- 内部更新ログ - 内部更新の設定について管理者の操作履歴を記録します (オンプレミス環境のみ)。
- ロールバックログ - ユーザーまたはデバイスがバージョンを正常にロールバックしたイベントを記録します (オンプレミス環境のみ)。

ログデータをフィルタリングするには、条件を指定して「**検索**」をクリックします。ログデータを CSV ファイルに書き出してダウンロードすることもできます。

お問い合わせ

Admin Console のライセンスに関して、またご不明な点につきましては、下記窓口までお問い合わせください：

株式会社 FoxitJapan

〒105-0022 東京都港区海岸 1-2-3 汐留芝離宮ビルディング 21F

- Web サイト：
<https://www.foxit.co.jp/>
- お問い合わせフォーム：
<https://www.foxit.co.jp/contact/>